

第七章 初期のモジアナ地方ベスト3コーヒー生産耕地

*移民初期のグアタバラ耕地周辺のコーヒー株数と生産量（サン・パウロ州）

1910年の聖州	コーヒー株数	696,701,425株
	年間生産高	12,124,050俵

【当時サン・パウロ州コーヒー生産3大耕地】

第1 フランシスコ・シュミツ耕地

67ヶ所の耕地	面積	18万アルケーレス
	コーヒー株数	750万株
	年間生産量	15万俵

第2 ズモン耕地

	コーヒー株数	500万株
	年間生産量	10万俵

第3 サン・マルチーニョ耕地

	コーヒー株数	241万株
--	--------	-------

14ヶ所の耕地傘下の年間生産量 7万株

グアタバラ耕地

	コーヒー株数	217万株
	年間生産量	5万～5.5万俵
	合計	12.5万俵

10年後の1920年にはサン・パウロ州はコーヒー株は増加で826,644,755株

	年間生産量	4,154,700俵
--	-------	------------

上の表の示すようにコーヒー株数は130,000,000ほど増加しているが生産高は大激減、これは1918年6月24、25、26日の3日間の未曾有の大霜が全州に及ぼし、半分以下に減収。ブラジルコーヒー栽培中でも記録的な大被害であった。また初期日本移民が配耕されたモジアナ地方中心都市、リベイロン・プレート市の人口は2万人あまりだった。（現在2006年50万人以上の人口）



グアタパラ耕地内のコーヒー園に並ぶ日本移民（1920年頃）



グアタパラ耕地全景 1996年頃



解体され前側だけが存在する映画館（Cine Guatapara´）1998年頃